

アジア・アフリカ ラテンアメリカ

今月の読み物

- 2面 総選挙と今年の AALA
- 3面 世界を展望
- 4～5面 新年の抱負
- 6面 全国縦断学習講演会
- 7面 列島 AALA、私の AALA
- 8面 がんばった 2014 年

日本アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会機関紙

2015年1月1日 No.654

バンドン会議 60 周年 日本 AALA 創立 60 周年

憲法を生かし、平和・協力・繁栄の東アジアを



竹楽器を演奏し歌うインドネシアの少女たち (2014年6月バンドンで)

存在意義を発揮する正念場の年

あけましておめでとうございます。

今年、日本 AALA が産声を上げてから六十年、第二次大戦終了から七十年、バンドン会議から六十年です。

世界では、米国依存や新自由主義から脱却した国づくりや、平和・協力・繁栄の地域共同体構築が進んでいます。新しい世界秩序をめざす動きも拡大しています。

日本では、総選挙で自公が解散前と同じ議席数を得て三分の二を維持、中間政党は全体で十議席減、対極の日本共産党が倍増超えの躍進をしました。まさに、集団的自衛権などの改憲問題、名護の新基地建設、秘密保護法、消費税増税とくらし、原発再稼働などをめぐり本格的な対決の時代に入りました。

みなさん！この時こそ、日本 AALA の存在意義の發揮の時です。世界の流れと運動に確信をもち、憲法を守り生かし、東アジアの平和共同体構築をめざし奮闘しましょう。学習や「国際署名」等を通し国民との共同を広げ、五月二十四日の「国際シンポジウム」を成功させましょう。その取り組みと結び会員拡大・組織を強化し、秋の創立六十周年記念の大会を迎えましょう。

皆さんの健康を祈念しご挨拶とします。

二〇一五年一月

代表理事 秋庭 稔男

小松崎 榮

四ツ谷光子

総選挙

自民・公明が3分の2超え、中間政党は後退 日本共産党が躍進 自・共対決の時代に

	2012年総選挙 当選数	解散前 議席数	今回当選数	増減
自民党	294	295	291	-4
公明党	31	31	35	+4
民主党	57	62	73	+11
維新の党	54	42	41	-1
みんなの党	18	解散	X	
日本未来の党	9	解散		
国民新党	1	解散		
新党大地	1	—		
次世代の党	—	19	2	-17
生活の党	—	5	2	-3
社民党	2	2	2	0
日本共産党	8	8	21	+13
無所属	0	15	8	-7

小選挙区 700万票で1議席

12月14日に投開票がおこなわれた総選挙の結果は表のとおりです。自公の議席は改選時と同じで、引きつづき3分の2を維持しました。小選挙区では、日本共産党が700万票の得票で1議席ですが、自民党はその約3.6倍の得票で223議席を獲得。まさに小選挙区制のマジックによる結果です。

民主党や、第三極を名乗っていた、いわゆる「中間政党」は全体として10議席減でした。とくに、石原慎太郎元東京都知事を最高顧問に、自主憲法制定、排外主義などを掲げ、自民党を右から支える次世代の党は19議席から2議席に激減しました。

それに対し、政策で自民党と真っ向から対決した日本共産党は13議席増で倍増を超えました。「対決姿勢に評価」(東京新聞)「批判受け皿」(朝日新聞)とマスコミも報道しています。

沖縄 小選挙区で自民全敗

個別政策は国民の声とかい離

	反対	賛成
消費税 10%	49%	39%
集団的自衛権 行使容認	60.2%	31.3%
原発再稼働	56%	29%
辺野古 新基地建設	73.8%	15.1%

小選挙区制のマジックもさることながら、自民党が掲げる個別政策についてはほとんどが国民の声とかい離しています。

左の表はマスコミによる

全国世論調査の結果です。その最大の結果が、名護の新基地の是非を争点にした沖縄の選挙結果です。県知事選挙につづき、総選挙では小選挙区すべてで、新基地反対の「オール沖縄」の候補が、自民党候補に勝ちました。



沖縄タイムス(左) 琉球新報(右) 12月15日付

改憲 新基地 原発を軸に安倍暴走とたたかいつつ 国際署名 国際シンポジウム 会員拡大へ全力を

安倍首相は改憲を目指す考えを強調。「辺野古の新基地建設は予定どおり」と発言。たたかいはこれからです。憲法を守り生かすことを軸に、集団的自衛権行使容認、沖縄辺野古への新基地建設、原発再稼働、消費税と暮らし、日本軍「慰安婦」や核兵器問題などとりくみつつ、安倍内閣の暴走と正面から対決します。

同時に、日本 AALA は存在意義の発揮の課題である、東アジアに平和・協力・繁栄の共同体をめざし、今年は次のことを重点に活動します。

- ① 全国縦断学習講演会
- ② 国際署名
- ③ 5月24日の国際シンポジウム
- ④ 日本 AALA 創立 60 周年の大会とレセプション
- ⑤ 会員の拡大と組織の強化

新しいアジア太平洋秩序の胎動と 目立つ北東アジアの空白

2014年11月のはじめに、アジア太平洋地域の今後を話し合う一連の首脳会議がひらかれた。最大のテーマは大国化する中国と周辺地域の秩序をどのように構築するかだった。米中や東南アジア諸国が活発な外交で構想を展開したのに対し、対話が途絶えている北東アジアの空白が浮き彫りになった。



強まる中国の指導力

北京での環太平洋経済協力会議（APEC）首脳会議では、米中が10時間の首脳会談をおこなった。対立は残るものの気候変動や情報技術など広範囲の協力で合意した。貿易投資では、米中が双方を排除しないアジア太平洋自由貿易圏（FTAAP）実現に向けたロードマップが策定され、共同の戦略的研究を実施することが合意された。

米が中国を除外してすすめる環太平洋経済連携協定（TPP）と中国がアジアだけですすめる東アジア地域包括的経済連携（RCEP）が並立してきたが、両者が加わるAPEC秩序が先行する可能性がでてきた。主催国・中国のイニシアによるもので、就任したばかりの習近平政権と残り任期2年になった米オバマ政権の指導力の変化を印象づけた。

秩序形成に 主導力を発揮（ASEAN）

続いてミャンマーの首都ネピドーでの東南アジア諸国連合（ASEAN）首脳会議では、来年の共同体創立にむけ88%の進展を確認し、ポスト2015のビジョンを採択した。ま

たASEAN主導で域外国との重層的な首脳会談。18カ国が参加する東アジア首脳会議では「アジア太平洋地域の安保秩序をめざす共通のビジョン策定に議論をすすめる」（議長声明）ことになった。

焦点の南シナ海問題では、中国は領有権問題で紛争国との直接対話による解決との方針は譲らなかったものの、法的拘束力のある行動綱領（COC）締結にむけ努力を確認。200億ドルのインフラ投資協力など融和姿勢を示した。

孤立の危険が深まる日本

豪州ブリスベンでのG20首脳会議でも世界経済問題のほか、米中豪印を結ぶ多角的な連携が話し合われた。オバマ大統領は演説でリバランス政策と軍事同盟重視を強調、安倍首相は日豪米の三国連携をアピールした。北京での日中首脳会談は関係改善の一步にはなったものの、笑顔のない握手は溝の深さも示した。韓国とは対話の糸口さえつかめず、外交の遅れは深刻で、北東アジアの空白と日本の孤立が深まる危険を見せ付けた。

こうしたなかでおこなわれた沖縄の県知事選挙。「基地経済に頼らず、平和の島のメッセージをアジアに発信していきたい」との翁長知事のアピールが光を放った。

（田中靖宏常任理事）

今年は日本 AALA 創立 60 周年です。いまほど日本 AALA の存在意義がかがやき、期待されているときはないと思います。そのなかで女性の存在と活動がかがやいています。年頭にあたり、全国の地域組織の要としてがんばる女性の理事長（会長）や事務局長に今年の抱負をふくめたごあいさつをいただきました。

静岡県
アジア・アフリカ・ラテンアメリカ
連帯委員会



事務局長 山口享子

新年おめでとうございます。
軍事同盟、核兵器開発、領土問題、歴史認識…緊張と紛争の火種が山積する「東アジアにこそ対話と外交による平和を」は、多くの人々の願い。共同体創設を目指す東南アジアの経験にも学び、文化交流を含め市民レベルで平和の枠組み作りへの共感を広げていく AALA の出番、との思いでがんばります。

奈良県
アジア・アフリカ・ラテンアメリカ
連帯委員会



理事長 宮城恭子

2013 年 7 月日本 AALA 全国大会で埼玉のとりくみを聞いたとき「これだ！」と感じて 1 年 5 カ月、ようやく実現した「従軍慰安婦 100 人」デッサン展（2014 年 12 月）を通じて新たな学習と連帯の輪が確実に広がったことに確信をもち、引き続き県内で慰安婦運動の核作りにとりくみたい。モチロン「世界から学び、日本を変える」運動を楽しみながら大いに広めたい。

山形県
アジア・アフリカ・ラテンアメリカ
連帯委員会



事務局長 山川美江子

AALA の活動は、今日の世界と日本の情勢のもとでいよいよ重要になっていると思います。山形県 AALA は 2015 年 2 月で結成満 10 年になります。この数年は、組織・財政の建て直しでしたが、昨年は新たな活動を展開することができました。2015 年は活動の充実が、組織の拡大につながるよう、楽しくがんばっていききたいと思います。

社会の春は人がつくる 日本の未来は女性がつくる

新潟県
アジア・アフリカ・ラテンアメリカ
連帯委員会



事務局長 野沢洋子

新しい年の幕開けに「平和の共同体こそ世界の流れ」と、心新たにしています。昨年 10 月北信越ブロック集会での駐日キューバ大使による「中南米カリブ共同体（CELAC）」のお話は感動的でした。米国の裏庭と言われたラテンアメリカが独立と統合のためにたたかい、平和の共同体をスタートさせて歴史。北東アジアにもぜひ生かしたいです！

愛媛県
アジア・アフリカ・ラテンアメリカ
連帯委員会



事務局長 山本 翠

日本の現状、沖縄の現状を見ても世界的視野を持たなければ、ますますその展望を語るができないように思う昨今です。その世界的視野を国民のなかにどれだけ提起できるかが AALA の仕事でもあるように思います。身を沖縄に置きながら愛媛の仲間とともに微力を尽くしたいと思う年頭です。

兵庫県
アジア・アフリカ・ラテンアメリカ
連帯委員会



理事長 貫名初子

社会の春は
人がつくる
人は年をとるほど
若くなる
百歳はもう目の前
しっかりしなくては！

埼玉
アジア・アフリカ・ラテンアメリカ
連帯委員会



理事長 小島民子

人類が、ここまで積みあげてきた苦難の歴史と文明を、一片の欲望の火種の中に消滅させるようなことがあってはなりません。
東南アジア友好条約による話し合いと協力を重ね、平和な未来に向かって一歩ずつ着実な歩みを進めるのみです。

京都府
アジア・アフリカ・ラテンアメリカ
連帯委員会



運営委員長 本田久美子

昨年 12 月、「東アジアを不戦・平和、協力の地域に」全国縦断近畿ブロック学習講演会を、ワリード・アリ・シム駐日パレスチナ大使をお招きして開催し、中東の平和実現めざして大きな一歩を踏み出しました。世界の平和を考えると、唯一被爆国日本の平和を崩してはならぬと強く感じます。小さな一歩でもたくさんの人だと大きな一歩となります。平和の一歩をみなさんと歩みましょう。

広島県
アジア・アフリカ・ラテンアメリカ
連帯委員会



代表幹事 林 紀子

「目からうろこよ！世界は戦争ではなく平和に向っているんだ」広島 AALA の学習会に参加した友人の言葉です。アメリカ一辺倒を刷り込まれた人たちにとってこんな感想は少なくありません。
ASEAN、中南米、アフリカでの非同盟諸国運動を知らせ、「東アジアに平和の共同体を」を掲げる AALA がいよいよ出番となる年です。

千葉県
アジア・アフリカ・ラテンアメリカ
連帯委員会



事務局長 上田敦子

昨年 11 月末第 13 回定期総会を終え、引き続き事務局長となりました。これまで会員アンケートを取り、地域懇談会をおこなって、会員同士のつながりを大切にしてきました。「世界の動きを知ると、日本を変革する確信が出てくる」、そんな会員のみなさんの声に AALA の役割を再認識し、がんばろうという気持ちを強くします。「東アジアを平和の共同体に」、壮大な目標に向かう隊列を大きくしなければと。

大阪
アジア・アフリカ・ラテンアメリカ
連帯委員会



事務局長 和田鈴江

事務局長としてはじめて迎える 2015 年。組織の名称と機関紙の題字を変更し、新たなスタートを切りました。充実した機関紙を中心に、学習と会員交流、そして AALA フェスティバルなどとおして飛躍的に会員を拡大したい。夢は日本 AALA でベネズエラ「エル・システマ」オーケストラ全国縦断コンサートを成功させること！

全国縦断学習講演会報告

12月は中部ブロックと近畿ブロックで、全国縦断学習講演会が開催されました。その報告をいたします。

中部ブロック

平和の共同体づくりの
実現可能が明らかに

日本の明日を決める総選挙の最中、12月7日、名古屋特殊陶業市民会館にて、日本 AALA と東海ブロック（愛知・岐阜・静岡 AALA）共催による「世界情勢講演会 IN 名古屋」が開催されました。

第一部では、ベネズエラ・ボリーバル共和国特命全権大使のイシカワ・セイコウ氏が、「ベネズエラ・ボリーバル共和国の現状とラテンアメリカの課題」と題して、現在のベネズエラの社会開発の現状を教育、女性の社会進出、民主主義の進展状況などを中心に縦横に語りました。

ベネズエラに根付いた民主主義による社会主義的諸政策は、チャベス大統領亡き後も、国民の熱い信頼に支えられており、反動側といえども同様な政策を公約せざるを得ない状況を生み出しているようすが、日本の報道のゆがみと共に明らかにされました。



第二部は、日本 AALA 国際委員会責任者の新藤通弘氏による「東南アジア諸国連合（ASEAN）の経験から平和の共同体づくりを学ぶ」で、第二次世界大戦以降の東南アジアの歴史と非同盟運動の歴史を豊富な資料で紐解きながら、東アジアに戦争が起こり得ない状況を経済や貿易の現状からも明らかにしつつ、平和の共同体づくりの実現可能性を明らかにしました。終了後は近くの居酒屋で大使を囲んでの懇親会が開催されましたが、大使が発演するまで質問が尽きることはなく、充実した学習会となりました。

（岐阜県 AALA 事務局長 椋木昭夫）

近畿ブロック

美しいパレスチナを
破壊しつくす現実にショック

全国縦断学習講演会（近畿ブロック）が12月7日午後、京都の鴨沂会館で開かれ、京都を中心に大阪、奈良などから約60人が参加しました。

講師とテーマは次のとおり。

- ①南米革命の現状と平和の共同体
（日本 AALA 常任理事・田中靖宏さん）
- ②パレスチナ・イスラエル問題のルーツと真実
（駐日パレスチナ常駐代表部大使・ワリード・アリ・シヤムさん）

講演のあと近くのカフェでひらかれた懇談会には30人が参加。4月に来日したパレスチナからの留学生も出席し、日本語であいさつしました。

寄せられた感想の中から二つを次に紹介します。



<南米革命> ASEAN の経過と現状も聞けて、とてもよかったです。南米革命についてももう少し時間がとれたらよかったです。また聞きたいです。
<パレスチナ>もともと、あんなに美しいパレスチナにびっくりしたし、破壊し殺しつくす現実にショックです。アメリカべったりの日本がまだパレスチナを国と認めないことを、とても残念、申し訳なく思っています。

（京都 AALA 事務局長 澤居紀充）

1月の
開催予定

■中国ブロック
1月17日（土）13:00 開会
岡山国際交流センター
講師 ヌアンタシン駐日ラオス大使
田中靖宏日本 AALA 常任理事

■四国ブロック
1月24日（土）13:00 開会
愛媛大学共通講義棟
講師 イシカワ駐日ベネズエラ大使
新藤通弘日本 AALA 常任理事



千葉

第13回定期総会開催

千葉県 AALA は、11月29日第13回定期総会を開催しました。日本 AALA の小松崎代表理事に、来年60周年を迎える日本 AALA の運動（国際署名や国際シンポジウムなど）について語っていただきました。これと千葉県 AALA の運動をリンクさせ、13期の活動を具体化していくところです。

今総会では、運動とともに、2つの議案を提出。財政赤字解決の方針と会成立規定をはじめとする規約改正です。

財政問題では、3年間の財政分析でこのままで赤字が膨らみ続ける状況を説明。そのために、①会費の月50円アップ②事業収益増諸費用の節約③交通費の足切りなどによって収支均衡を図り、今後数年かけて赤字解消をすることを提案。足切りは組織の先細りを招

く、値上げは痛いなど率直な意見が出され、議論の末、値上げが承認されました。

総会成立規定の設置は前総会での厳しい指摘に基づき、民主的な手続きを提案したものです。今回適用されませんが、役員の方で総会成立の条件を満たしました。総会案内の返信にはいろいろな意見が書き込まれ、会員とのつながりを感じ、運動への



大きな励みとなっています。
(事務局長 上田敦子)

宮城

「韓日交流のあるべき姿」
韓国領事の講演会を開催



宮城県 AALA は、駐仙台韓国総領事の李凡淵氏を講師に迎え「韓日交流の現在とあるべき姿」と題して、日本語で講演をしていただきました。会場となった仙台市福祉プラザの研修室には約60人参加しました。

私たちの位置づけは、「東アジア

の平和の共同体」の方針を示した日本 AALA の提起をこの宮城で実践しようというものでした。アセアンを訪問した時に、インドネシアの副大統領補佐官のアンワルさんが、アセアン設立の1969年当時、東南アジア諸国間にも相互不信、軋轢があった、しかしそれを協力の関係に転換できる、と発言したことは勇気づけられるものでした。

実施して、今まで見えなかったことが良く見えてきました。在日韓国人の目から見た日本社会の異常さも良くわかりました、良いことも見えてきました。政府レベルでの話し合いが進まない状態ではまず、我々民間で交流を進めようと、改めて感じています。

(事務局長 小林立雄)

わたしと 68

AALA

北海道AALA事務局長
片岡 満

若い世代の
担い手づくりを進めたい

6月に、33年間勤務した民医連の職場を早期退職しました。

母の介護や自身の健康悪化が理由ですが、退職後は平和運動をラ

イフワークにしようと決めていましたので、職場の大先輩でもある道 AALA の伊藤恵夫理事長に、事務局のお手伝いを申し出てみました。思いのほか歓迎され、7月の総会で事務局員に任命された後わずか半年たらずで事務局長のオファーをいただきました。

会員歴だけは30年近くありますが、地方勤務が長かったこともあり、行事参加も稀でした。まして組織の実務をこなすのは初めてで、いろいろ不安もありましたが、11月からお引受けすることになりました。

道内の民主団体では、還暦前の

事務局長はほとんどいないとのこと。反核・平和や護憲・民主主義擁護の諸運動に関わる活動家の高齢化が指摘されて久しくなっています。その一方で、世界は戦争から対話の時代へ、軍事同盟から非同盟中立へと激動しており、草の根の国際連帯活動はますますその重要性を増しています。

北海道 AALA としても、今年を「平和の共同体づくり」について学び、行動する一年にするべく、行事予定を立ててとりくんでいきます。その中で、若い世代の担い手づくりを進めることを意識的に追求していきたいと考えています。

力を合わせ、憲法を守り生かし、 平和・協力・繁栄の東アジアめざしががんばった2014年

憲法を守り安倍暴走政治とたたかう



1月 沖縄基地闘争・名護市長選支援ツアー



年間として各地で原発 NO、
集団的自衛権行使容認 NO などの運動



「東アジア共同体」めざし多様な活動および2大選挙



6月 ASEAN 訪問



1月から各国の大使と懇談



8月 たたかいの意思統一の全国理事会開催



7月から全国縦断学習講演会開始



「知りたかった
アセアン」を発行



11月 沖縄県知事選挙大勝利



11月から国際署名開始



12月 総選挙でがんばる!

編集・発行

日本アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会

JAPAN ASIA AFRICA LATIN AMERICA
SOLIDARITY COMMITTEE



住所 〒160-0022 東京都新宿区新宿 2-11-7 第33 宮庭ビル 4階

電話: 03 (5363) 3470 HomePage <http://www.japan-aala.org/>

FAX: 03 (3357) 6255 E-mail: info@japan-aala.org

振替 00110-6-72434 毎月1回1日発行 1部150円 (送料62円)